

國森康弘 (くにもり やすひろ)  
 写真家、ジャーナリスト。1974年生まれ。神戸新聞記者を経てイラク戦争を機に独立。アジアやアフリカなどの紛争地や経済貧困地域を回り、国内では、戦争体験者や野宿労働者、東日本大震災被害者の取材を重ねてきた。「あたたかで幸せな生死を伝えること」「いのちの有限性と継承性」をテーマに、近年では看取り、在宅医療、地域包括ケアの撮影に力を入れる。第22回けんぶち絵本の里大賞、2011年度上野彦馬賞など受賞多数。著書に『いのちつぐ「みとりびと」』(全8巻)、『家族を看取る』(平凡社)、『3・11マルチダウン』(凱風社、共著)、『TSUNAMI3・11: 東日本大震災記録写真集』(第三書館、共著)など。

- 「みとりの現場には悲しみもあるけど、言葉にできないような幸せな空気が充満していた。旅立つ人は、生命力と愛情という命のバトンを家族に渡して旅立つ。全世代の人に読んでほしい」(毎日新聞)
- 死は敗北ではなく、本人の思いに寄り添うみとりで、幸せな死を迎えられることを多くの人に知ってもらいたい」(中日新聞)
- 「命の終わりを直視する場面も多く、ショックを受ける子もいるかもしれない。でも、死は生の大切な一部であり、忌み嫌うものではないと知ってほしい」(読売新聞)
- 「恋ちゃんのように身近な人の命を大切に受けとめて初めて、知らない人の命も大事にできます。それは戦争をなくす力にもなるはず」(朝日新聞)

- お年寄りや家族の表情がすごく印象的でした。……死というとマイナスなイメージが先行しやすい気がしますが、この本を読むとあたたかさを感じます。
- 毎日新聞の記事をみて 取り寄せました。今後授業で使わせていただきたいなと思っています。といっても全巻通してみたのはまだ1回なのですが…。どうしても色んなことを思い出して 泣けて先へ進めないのです。……とても素敵な本をありがとうございます。
- ……本書を拝見し、他人様の別れに自分が立ち会ったような感覚になり涙が出て文字がぼやけてしまいました。良書ですね。早速、知人に伝えたいと思います。
- 死別はとても悲しい。でも、この写真集は、平易な文章と現実を客観的に切り取った写真とで、しかし暖かく〈命のバトンタッチ〉を教えてください。……この〈命のバトンタッチ〉の輪が、日本中に拡がります様に。

生命力と愛情を受けとり、次代にいのちつぐ、あたたかな看取りの世界、看取りの文化を伝える。

写真絵本シリーズ

いのちつぐ

みとりびと

第1集

全4巻

写真・文 國森康弘 (写真家・ジャーナリスト)

【第1集の巻構成】

★第22回(2012)けんぶち絵本の里大賞

第①巻恋ちゃんはじめでの看取り

—おおばあちゃんの死と向きあう

おおばあちゃんの死と向きあう恋ちゃん(小5)の想いをたどりながら、あたたかな看取りの世界を臨場感あふれる写真・文で描く。

第②巻月になったナミばあちゃん

—「旅立ち」はふるさとでわが家で

一人暮らしのナミばあちゃんを支える家族や地域の人、医療関係者の交流をたどり、在宅での最期を可能にした看取りの現場を描く。

第③巻白衣をぬいだドクター花戸

—暮らしの場でみんなと輪になって

高齢化した農村で在宅医療を支え続ける花戸医師と医療関係者、その診療の姿と多彩な活動を通し、いのちと医療の在り方を考える。

第④巻いのちのバトンを受けとって

—看取りは残される人のためにも

人の死を冷たいものから解き放ち、あたたかい死へ、「いのちのバトンリレー」へ。それを実現した家族9組の看取りの世界を描く。

AB版・オールカラー32ページ 総ルビ 978-4-540-11264-5  
 第1集(1~4巻) 既刊 ●揃本体7,200円+税)



「第1巻 恋ちゃんはじめでの看取り」より

教科との関連(全8巻)

- 小学校 3,4年社会:地域の生活、5,6年家庭:家庭生活と家族、3~6年総合的な学習の時間:いのちの学習、道徳など。「読み聞かせ」「お話し会」でも。
- 中学校 社会:私たちが生きる現代社会と文化、家庭:家庭と家族関係、保健体育:健康な生活と疾病の予防、など。

農文協

(社)農山漁村文化協会

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1

http://www.ruralnet.or.jp/

TEL 03-3585-1142 FAX 03-3585-3668

申込書

いのちつぐ

みとりびと

第2集 全4巻(5~8巻)

ISBN 978-4-540-12164-7

セット

いのちつぐ

みとりびと

第1集 全4巻(1~4巻)

ISBN 978-4-540-11264-5

セット

氏名(団体名)

ご住所(〒 )

(ご担当者様)

TEL

FAX

E-mail